

平成30年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校 第3学年

	学力調査から見えた課題（調査のない教科は授業における課題）	授業改善のための具体策	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 聞きとる能力が低い数値で、読む能力もこれに比例して低い数値を示している。自らの意見をまとめる点において語彙力の不足が目立つ。漢字や語句の意味は理解できても、表現する時点で言葉の選択、識別が困難になると思われる。 文章から事実と意見を識別し、自らの考えや意見を記述する能力が不足している。文学的文章での登場人物の心情変化などの読み取りは充分に対応する能力があるが、説明的文章の要旨を捉える力についてはいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やすために学力向上テストの内容に、語句の意味や類義語、対義語など言語知識を問う設問を多く入れて実施する。 文章の読解能力を維持発展させるため、板書以外に口述筆記の授業展開を意図的に増加する。また、説明的文章の読解の際、段落要旨を短作文で記述する展開を多用する。 国語に関する興味関心を高める教材や読書意欲を喚起する授業の工夫を行う。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎計算力は低くないが、関数と図形の正答率が低かった。知識理解の定着が不十分ことから、問題で問われている内容が読み取れていないと思われる。 資料を比べ、自分の考えを記述する問題の正答率も低かった。計算や資料を読み取る力はあるが、性質や原理を理解していないことから、文章化できていないものと感じる。語彙力も低く、言葉の言い回しも捉えきれないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の冒頭で数学の用語の意味や知識の確認を継続的に取り組む。また、入試問題にも触れさせ、問題文を読み取る演習に多く時間をかけ、読解力を向上させたいと考える。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査における思考・判断・表現の問題の正答率が低い。課題に対して、自分なりの考えを記述することが苦手な生徒が多い。 復習確認テストでは、基礎的な問題の正答率が全体的に低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業では習得した知識を活用して、思考させる問題解決型の学習を増やしていく。またグループ学習や討論学習を実施し、他の人の考えを踏まえて、自分の考えを深めさせるような活動をしていく。 1、2年の内容が定着していないことが大きな課題である。これまでの復習を、単元の終わりに計画的に取り入れていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 記述形式問題の正答率が、都の平均より6.6ポイントも低い。これは、実験の結果などを自分の言葉でまとめる能力が不足しているためであると考えられる。 理科の4分野のうち、生物分野は都の平均と同様のポイントとなっているが、化学分野の正答率のみがかなり低くなっている。 観点別の集計では、関心・意欲・態度の正答率がかなり低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果や考察などを書く際に、机間指導を行い、個別にアドバイスをし、自信をもって記述できるようアドバイスを行う。 化学式や化学反応式などの復習をくり返し行い、物質を記号を用いて表すことに慣れさせる。また、イオン式や電離式の書き方の練習の際にも、化学式の復習を行う。 教科書の実験に、生徒の興味を引くような内容を随時追加し、関心・意欲を高める。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに取り組もうとする生徒とそうでない生徒の差がある。合唱への意欲は高い生徒が多いが男女の人数比が良くないので表現の更なる工夫が必要だと考える。器楽は個人差が大きい。鑑賞への取り組みも概ね積極的にできる。鑑賞で感じたこと、考えたことに対する、アウトプット表現が苦手な生徒がいる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習。 ⑤鑑賞文の書き方を国語科、美術科と横断的に情報交換しながら行う。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて活動している。 自ら主題について深く考え、追求することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の状況を把握し、具体的かつ深く主題等を決められるよう個別指導を行う。 美術的なものが生まれる過程において、自己をみつめることの大切さを様々な作例の鑑賞等を通し気づかせる。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 3年間のまとめとして、各単元ごとに目標を明確にさせ取り組ませる。 授業規律は良いが、取り組む内容によって目的意識が低く活動に差が出ることがある。 評価において、「思考・判断」の評価に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとにねらいを伝え、各自の目標を決めさせる機会を設けていく。（学習カード記入、話し合い等） 3年は進路も意識するため、評価方法を伝え意識を変えていくことを促していく。 内容を十分に理解させたうえで、具体的にどう活動して課題解決に繋げていくか伝えていく。 教員間の授業に対してのねらいや具体的な動きの確認を密にしていく。 	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度はおおむね良好であり、創意・工夫を意識した作品づくりを目指して取り組んでいる。 知識・理解に欠ける生徒の割合が多く、日頃の生活と学習内容が結び付いていないことが原因かと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ？」を意識した学びを実践できるよう、身の回りの物に関する「発想力向上クイズ」などを授業の導入で取り入れ、生徒の意欲向上、さらには知識を増やしていく工夫を行う。 	
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> 授業へ真面目に取り組む生徒が多い。提出物も概ね良好である。普段の家庭学習に課題がある。 1、2年の基礎的な内容（単語や文法）が、定着できていない生徒がいる。 英語を話したり、書いたりすることに苦手意識をもつ生徒が多く見られる。 長文を読むことに抵抗感や苦手意識をもつ生徒が多い。 	<ol style="list-style-type: none"> ①目標やねらいを明確にし、各自が「何をすべきか」を考えて学習へ取り組むよう支援する。できたことへ適切に評価し、達成感を味わえるよう工夫する。 ②1、2年の復習を週1で授業に取り入れる。毎時帯活動に語彙練習と4時に1回の単語テストを実施し、単語の反復練習を習慣づける。 ③「書く」「話す」活動を行うために、ALTの活用や毎時間の自己表現活動を工夫し、取り組ませる。 ④様々な読み物に触れさせ、「読む」ことに慣れさせる。 	